

箕面都市開発株式会社

令和元年度
令和2年度

決算・予算

〔速報版〕

令和2年6月

箕面都市開発株式会社

令和元年度決算の概要

1 令和元年度予算と決算を比較すると

- 営業利益、経常利益、当期純利益とも、**予算を上回り、経営は順調**です。

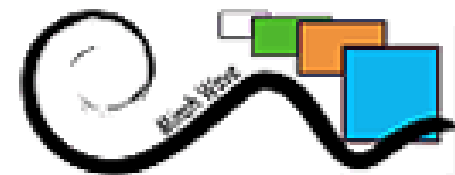
2 調停条項と比較すると

- 期末資金残高について、**調停条項の想定推移を大きく上回りました**。
- 純資産額については、平成24年度に債務超過を解消し、繰延税金資産^(※1)を除いても、**大幅に増加**しています。
- いずれの利益ベース(営業利益・経常利益、当期純利益)においても、**調停条項を大幅に上回りました**。

(※1):繰延税金資産とは…将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰り延べ処理することにより生じる資産のことをいいます。

3 今後の展望

- 受託料収入の増収や所有床賃貸契約の開始に伴い、引き続き**調停条項を上回る順調な経営**となっています。
- 引き続き、**キャッシュフロー安定化のための経営努力**を行います。



山口都市開発株式会社

令和元年度

決算

1. 令和元年度決算

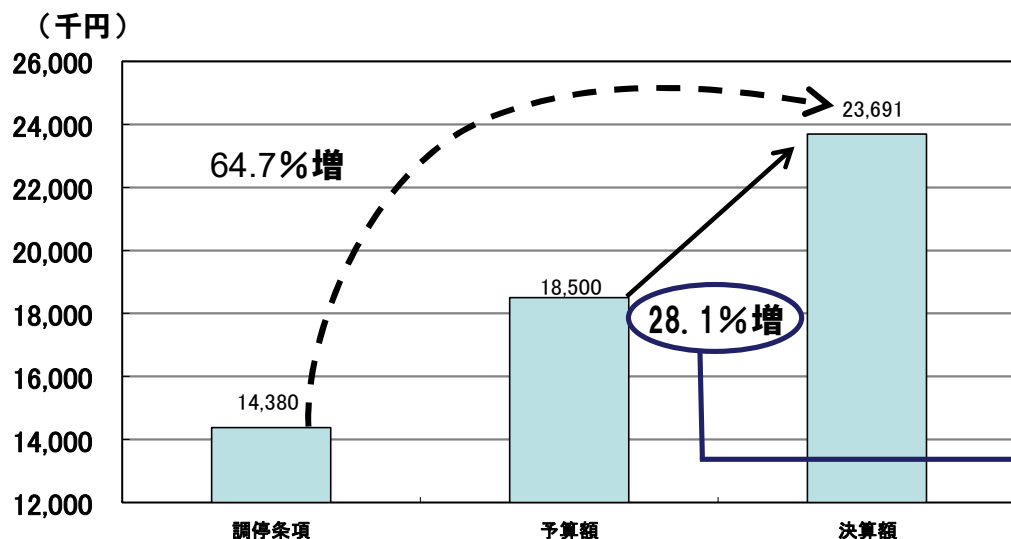
(単位: 千円・%)

	令和元年度実績			令和元年度決算の比較			
	調停条項	予算額	決算額	予算との比較		調停条項との比較	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	106,880	125,000	124,966	▲34	▲0.1	18,086	16.9
営業利益	14,380	18,500	23,691	5,191	28.1	9,311	64.7
経常利益	12,679	15,508	20,283	4,775	30.8	7,604	60.0
当期純利益(※)	6,222	8,700	11,377	2,677	30.8	5,155	82.9
期末資金残高	84,914	105,423	108,181	2,758	2.6	23,267	27.4
純資産額	40,534	77,302	79,979	2,677	3.5	39,445	97.3

(※)法人税等調整額を除いています。

法人税等調整額とは・・・税務上の益金、損金で算定される課税所得と企業会計上の収益、費用で算定される利益との差額を調整する会計処理のことをいいます。

2. 営業利益（本業利益）の比較



決算においては、すべての項目において、調停条項を大幅に上回りました。

要因

所有床の賃貸契約開始に加え、退職による人件費の減少等経費の削減が営業利益増加の要因です。

3.貸借対照表

(単位:千円・%)

	平成30年度		令和元年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
資産合計	585,680	100.0	574,777	100.0	▲10,903
流動資産	116,257	19.8	118,780	20.7	2,523
固定資産	469,423	80.2	455,997	79.3	▲13,426
有形固定資産	436,529	93.0	435,144	95.4	▲1,385
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	32,598	6.9	20,557	4.5	▲12,041
負債合計	493,336	84.2	483,096	84.0	▲10,240
流動負債	29,277	5.9	29,703	6.1	426
固定負債	464,059	94.1	453,393	93.9	▲10,666
純資産	92,344	15.8	91,681	16.0	▲663
純資産(繰延税金資産除く)	68,602	—	79,979	—	11,377

参考1：経営内容を判断するポイント

■ 貸借対照表や損益計算書で経営判断することも必要ですが、新たな投資や臨時的な支出に大きく左右されます。

★ 調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ① 期末にどれだけの資金残高があるのか
- ② 純資産額が増加しているのか

.....➔ **資金計画で判断することが適切**

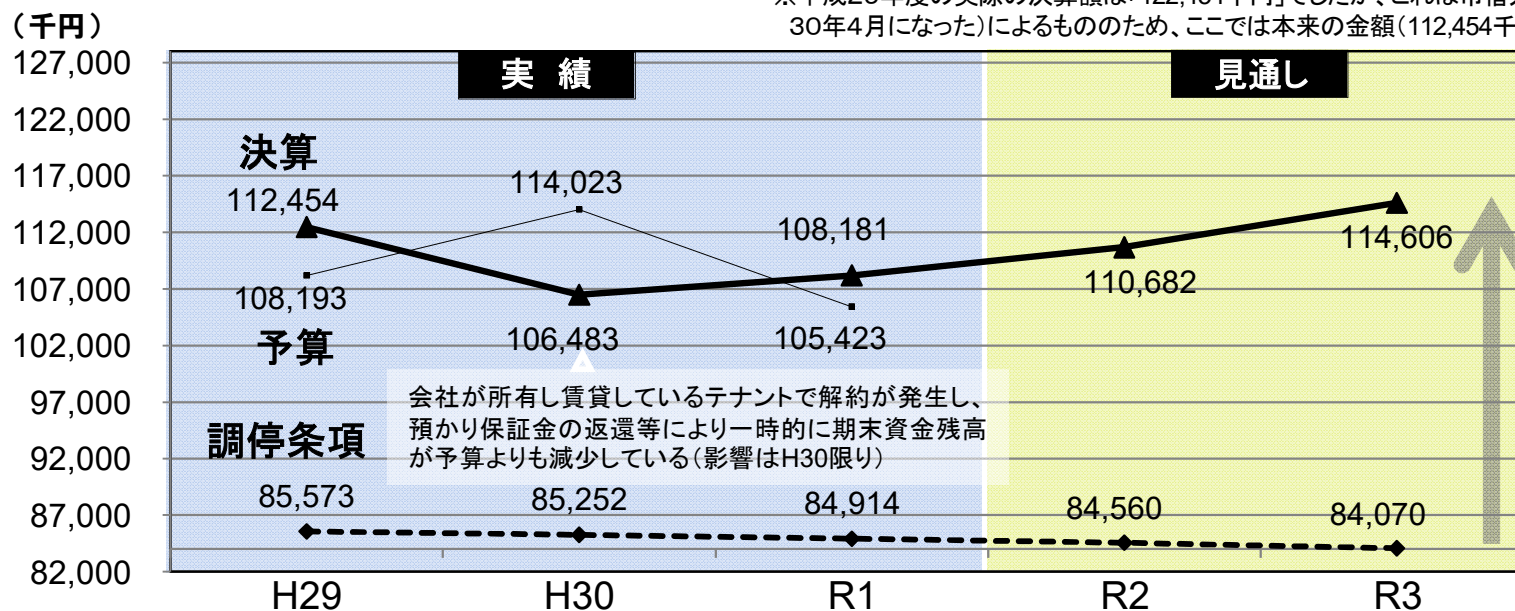
参考2：資金計画の見込み

(1) 期末資金残高の推移

(単位：千円)

	各年度の予算・決算実績				令和2年度	令和3年度
	平成29年度	平成30年度	令和元年度			
調停条項	85,573	85,252	84,914	調停条項	84,560	84,070
予算	108,193	114,023	105,423	今後の見通し 令和元年度決算による	110,682	114,606
決算	122,454	106,483	108,181			

※平成29年度の実際の決算額は「122,454千円」でしたが、これは市借入金支払日の年度ずれ(29年度分の支払日が30年4月になった)によるもののため、ここでは本来の金額(112,454千円)に補正しています。



会社が所有し賃貸しているテナントで解約が発生し、預かり保証金の返還等により一時的に期末資金残高が予算よりも減少している(影響はH30限り)

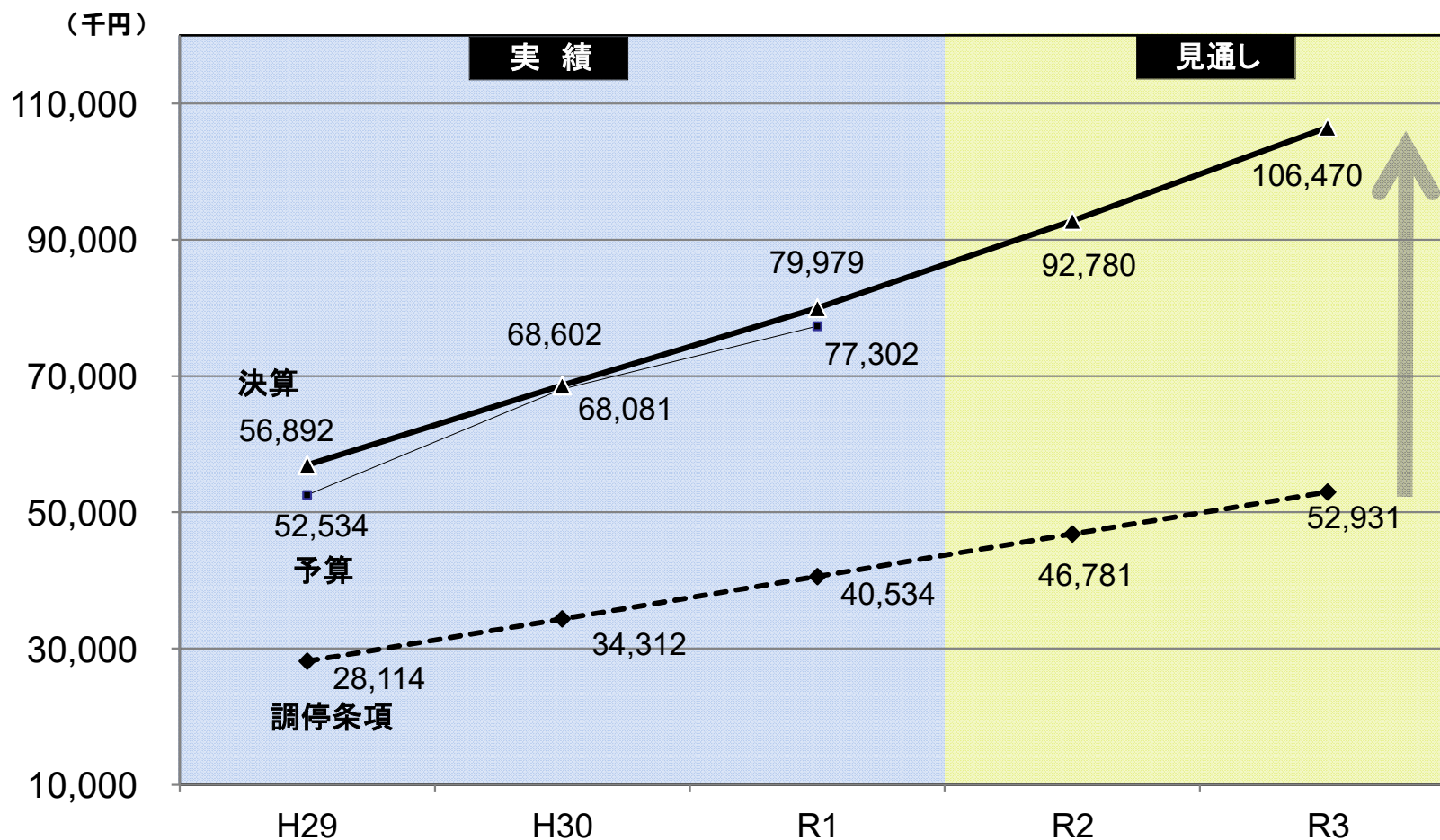
11期連続で調停条項の推定推移を上回る予定です。

(2) 純資産額の推移

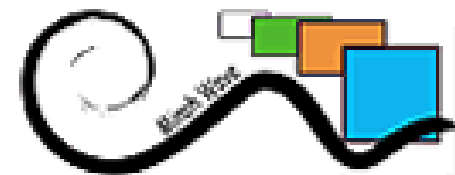
(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績				令和2年度	令和3年度
	平成29年度	平成30年度	令和元年度			
調停条項	28,114	34,312	40,534	調停条項	46,781	52,931
予算	52,534	68,081	77,302	今後の見通し 令和元年度決算による	92,780	106,470
決算	56,892	68,602	79,979			

(各数値は繰延税金資産を除いています)



調停条項の想定推移を大幅に上回る予定です。



鎌倉都市開発株式会社

令和2年度

予 算

1. 令和2年度予算と調停条項

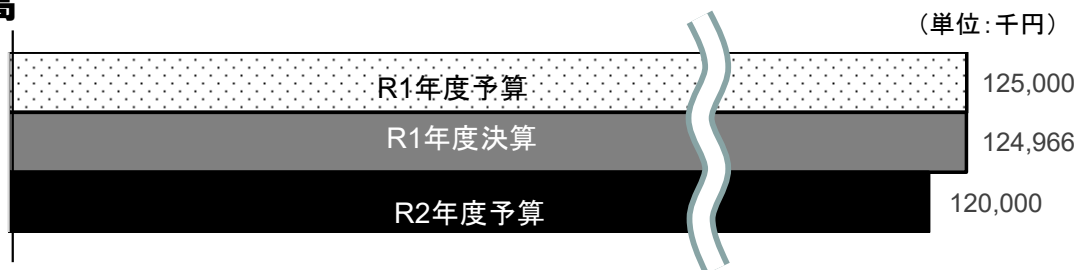
(単位:千円・%)

	調停条項 (令和3年3月期)		令和元年度 予算		令和2年度 予算		令和2年度予算の比較	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	調停条項との 増減率	令和元年度 予算との増減率
売上高	106,880	—	125,000	—	120,000	—	12.3	▲4.0
受託料収入	64,647	—	76,490	—	77,633	—	20.1	1.5
所有床賃貸収入	6,907	—	7,034	—	8,651	—	25.2	23.0
土地賃貸収入	23,640	—	23,580	—	23,580	—	▲0.3	0
受取手数料収入	2,296	—	2,796	—	2,389	—	4.1	▲14.6
文化・交流C売上	9,390	—	15,100	—	7,747	—	▲17.5	▲48.7
営業利益	14,380	13.5	18,500	14.8	15,000	12.5	4.3	▲18.9
経常利益	12,719	11.9	15,508	12.4	12,108	10.1	▲4.8	▲21.9
当期純利益	—	—	—	—	—	—	—	—
当期純利益 (法人税等調整額除く)	6,246	5.8	8,700	7.0	12,800	10.7	104.9	47.1

2. 売上高・利益ベースの推移

- 令和元年度決算において、各利益ベースとも令和年度予算を上回りました。
- 令和2年度予算において、令和元年度決算と比較すると、売上高は受託料の値上げや所有床賃貸開始により増収となるものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う文化・交流センターの利用料金収入の減少により減収となる見込みです。
- また、減資や土地売却による欠損金繰越控除制度の活用により法人税等が減少するため純利益は増加する予定です。
- 経営内容の判断指標である期末資金残高や純資産額は、順調に増加推移する予定です。(6・7頁参照)

■売上高



R1予算とR2予算の比較・主な要因

前年比4.0%減

- 文化・交流センター売上の減少による

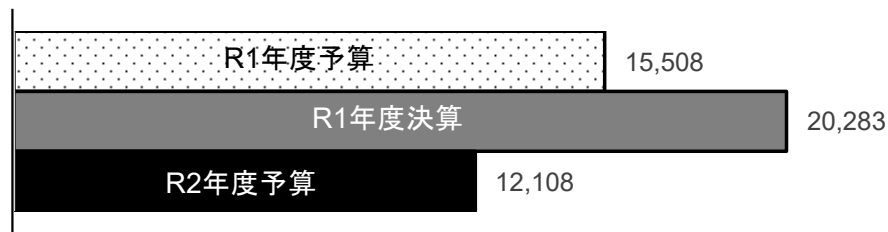
■営業利益



前年比18.9%減

- 売上高の減少による

■経常利益



前年比21.9%減

- 営業利益の減益による

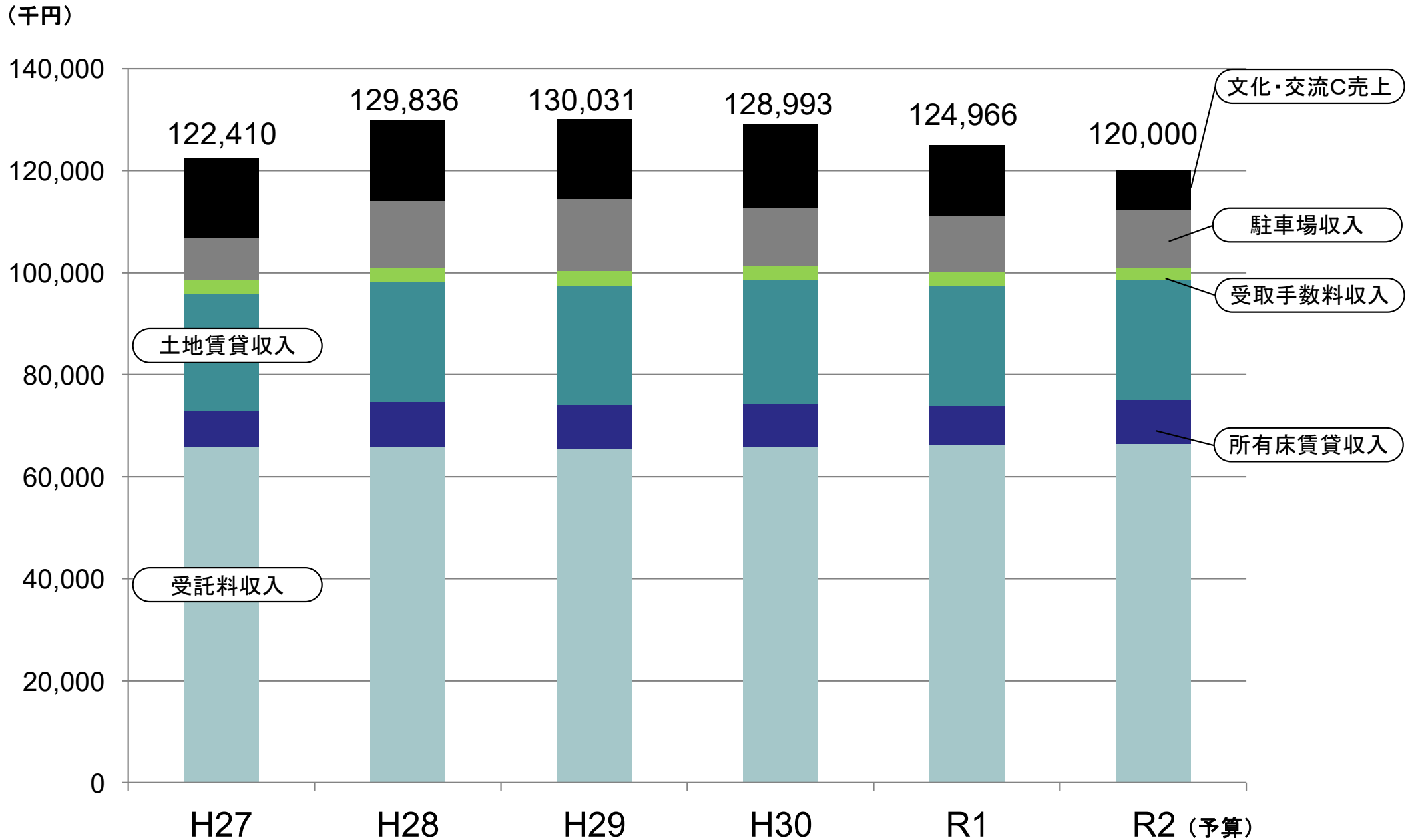
■当期純利益



前年比47.1%増

- 減資や土地売却による欠損金繰越控除制度の活用に伴う法人税額の減少による

参考1：事業別売上高の推移



参考2：売上高増減の主な要因

